



海輪 誠

一般社団法人東北経済連合会 会長

「わきたつ東北」に向けて力強く進む 新たな時代の始まり

2019年が幕を開けました。

今年は約30年間続いた「平成」が終わり、次の時代へと変わっていく節目の年になります。Society5.0に代表されるような、新しい時代の幕開けとなり、より豊かで明るい時代になっていくことを期待しています。

さて、平成の時代もいろいろなことが起きましたが、東北に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、間もなく8年が経過しようとしています。この間、被災地では復興道路などインフラ面での整備や、住まいの再建・復興まちづくりに取り組んできました。しかし、いまだ多くの方々が避難生活を送られている状況や、根強く残る風評被害、被災地における観光業や小売業の業績回復の伸び悩みなど、震災からの復興に向けた課題は依然として数多く残されています。2020年度までの復興期間終了が迫る中、より一層のスピード感を持って課題を解決していかなければなりません。

こうした状況の中、当会では東北の輝かしい未来に向けて、ビジョン「わきたつ東北」の3つの柱である「地域社会の持続性と魅力を高める」「稼ぐ力を高める」「交流を加速する」のもと、さまざまな事業活動に取り組んでまいりました。

その結果、去年は次世代放射光施設整備における国のパートナーに選定されたことや、東北の産学官金のトップが一堂に会するわきたつ東北戦略会議の立ち上げなどの成果を上げることができました。次世代放射光施設については、世界をリードする産学共創の拠点とすべく、国や宮城県、仙台市、東北大学、光科学イノベーションセンターなどと連携して今後着実に整備を進めてまいります。

また、国際リニアコライダー（ILC）について、当会は東北ILC推進協議会など関係団体と連携して誘致活動を積極的に推進してまいりました。ILCは我が国の科学技術振興や、震災復興、東北の経済発展などに大いに寄与するものであり、期限である今年3月までに日本政府が正式に国際協議の開始意向を表明することを期待しているところです。

「復興五輪」と位置付けられている2020年東京オリンピック・パラリンピックについては、開催まであと1年半となります。当会では、国、東北の官民が一体となって、本大会にあわせて東北の復興状況や魅力を発信する「2020東北の情報発信拠点」を東京都内に設置し、東北の交流人口拡大と観光復興、地域経済の活性化につなげたいと考えております。

さらに、去年も頻発した自然災害は、近年激甚化の傾向があります。改めて社会全体で、ハード・ソフト両面から様々な対策を講じていかなければなりません。当会でもこうした意識の啓発や、政策提言・要望活動などに取り組んでまいります。

今年の干支は「己亥（つちのとい）」です。亥（猪）にはまっしぐらに突き進むというイメージがあります。今年も「わきたつ東北」実現に向け、東北の産学官金为一体となり、今年の干支である猪にちなんで、力強く突き進んでいきたいと考えております。

本年も会員をはじめ関係各位の皆様からのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（東北電力株式会社 取締役会長・かいわ まこと）